

## 2022年度 入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学、おめでとうございます。

本日、名古屋学院大学は、学部生 1,581 名、大学院生 39 名、留学生別科 7 名、編入学生 5 名、あわせて 1,632 名の新しい仲間を迎えることができました。ご列席いただいた皆さまとともに、大学を代表して心よりお祝いを申し上げます。また、保護者並びにご家族の皆さまには、ご参列いただき、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

我々、教職員一同は、新入生の皆さんが、本学での 4 年間を通して、高い志と豊かな国際感覚を備え、社会の発展に貢献できる人財として成長できるよう、全力をあげて支援することをお約束いたします。

入学式は、新入生の皆さんを歓迎する式典であるとともに、「大学で学ぶ」意味を確認していただく機会でもあります。皆さんが今この場に座っているのは自分を大きく「成長」させたいからであるということ、つまり、自らの可能性を広げるために大学に来たのだ、ということ、まずはしっかり心に刻んでください。

その上で、皆さんのご入学にあたり、ここで二つの話をしたいと思います。

一つ目は、本学の「建学の精神（けんがくのせいしん）」である「敬神愛人（けいしんあいじん）」について、二つ目が「大学での学び」についてです。

一つ目は「建学の精神」です。「建学の精神」という表現は多くの皆さんにとっては馴染みのないものかもしれません。これは、学校を創立する際の根底にある考えを表現したフレーズ、つまり校訓のことです。そして、キリスト教主義大学である本学の建学の精神は「敬神愛人」です。今から 135 年前の明治 20 年（1887 年）に本学に繋がる名古屋英和学校を建てた創始者フレデリック C. クライン牧師が選ばれた言葉です。「神を敬い、人を愛する」と書きます。「神を敬い、人を愛する」とは、人として、学ぶ者も教える者も謙虚であれ、そして、他者に対して優しくあれ、という普遍的な意味あいを持つフレーズです。本学に学ぶ者は、是非、この言葉に向き合ってもらいたいと考えています。

現代社会においては、IoT、SDGs、DX、などの時代を映し出すキーワードからもわかりますように、Computer や AI、世界を繋ぐ情報ネットワークなどの進展により、我々を取り巻く環境はこれまでヒトが経験したことのないスピードで変化しつつあります。テクノロジーのさらなる進展が予測される時代にあって、多くの賢人が、これからの「学び」は、我々自身、つまり、「人間」自身へと、その関心が向けられなければならないと述べています。

人間とは何か、人はなぜ生きるのか、人にとって大切なものとは何か。このような根源的な問いかけに向き合う時代がやってきているということになります。

私は、建学の精神である「敬神愛人」はそれに向き合う姿勢を表しているものだと考えています。それぞれの学部において、現代の世界や社会と、そこに生きる我々人間を、掘り下げてゆく研究がなされます。それらの研究が収斂するところが、この「敬神愛人」であると私は考えています。それゆえ、この「敬神愛人」の意味するところを追求していくことこそが、ここに集う、名古屋学院

大学に集う、我々の使命・ミッションでもあるわけです。

次に、二つ目の「大学での学び」というポイントに、話しを移しましょう。

大学は、教育機関、つまり「学びの場」ですが、今までみなさんが経験してきた小学校・中学校、高校とは次元が異なる「学び」の場所であるということをまずは理解してください。例えば、これまでの学校では同じクラスの生徒は同じ時間割で同じ科目を勉強してきました。大学では、同じ学部同じ学科でも、それぞれの学生が自分の関心に沿って学ぶ科目を決めていくので、自ずと時間割は異なってきます。さらに、これまでの勉強では、問題、解き方、解答がすでにそこにあるものをこなしていく作業でした。しかし、大学は違います。大学では、問題を自ら見つけ、その解法を自ら探し、さらに、得られた答えがどこまで正しいものなのかといった検証まで、すべて自らの責任で行うこととなります。つまり、研究です。高校までのような検定教科書はありません。世の中のあらゆるものが研究テーマとなりえます。心の問題、身体の問題、経済の問題、法の問題、社会の問題などから、AI のシンギュラリティの問題、LGBTQ の問題、人新世（ひとしんせい）の問題、或いは、現在世界中の人々が平和的解決を希求しているウクライナ問題を取り上げる学生も出てくるはずです。研究においては、表面に現れる現象の、その奥に潜む真の問題に迫る必要があります。それには、「学び」への働きかけの姿勢が不可欠です。「教えてもらう」という受身的な姿勢では得られるものはごく限られたものになります。失敗を恐れて後部座席（バックシート）に座っているのは、何も学べません。つまり、自らが運転席（ドライバーズシート）に座ることから始まります。

若者の特権は「夢」を語ることです。ぜひ、自分の夢を持ち、その実現にむけてチャレンジして下さい。自分を高みに押し上げるその「夢」を目指して頑張ってみてください。

自分の可能性に自らリミッター（制限装置）を設ける必要はありません。先入観・未経験をあきらめる理由にすることはありません。初めて踏み出すときには、自信がないのは当然です。そうであるからこそ、夢に取り組むことができるわけです。

もちろん、夢は簡単に手に入るものではありません。時に失敗する場合があります。しかし、失敗は恥ずかしいことでも自分を卑下することでもありません。そこにこそ、「学び」のチャンスがいっぱい詰まっているのです。「あの時、やっておけばよかった」という後悔よりも、「やってみて色々なことがわかった、今回の経験を次に繋げていこう」、というポジティブな考え方を選べる学生であってください。

以上、2つの点：「建学の精神」である「敬神愛人」と「大学での学び」についてお話しをしましたが、最後に、ウィズコロナ時代に大学生活を始められる皆さんにお願いしたいことがあります。ご存じの通り、新型コロナウイルス感染症は、現在、オミクロン株による感染者数が下降に転じてきますが、昨年の秋口に見られたような劇的な減少ではなく、高止まりの状況が続いています。さらには、今後別の種類による感染再拡大（いわゆる第7波）の可能性も否定できません。よって、感染対策への意識は、持ち続けることが重要です。マスクの着用は言うまでもなく、ソーシャルディスタンスを保つなど3密を回避する行動を心掛けてください。とくに、学食内での感染リスクを回避するため、昼食時の感染防止マナーに気をつけてください。みなさんの、大学生としての、良識ある、分別ある行動が、感染リスクを下げ、登校の機会を守ることになるのです。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

さあ、みなさん、新しいステージの始まりです。  
キャンパスには、皆さんと共に歩む先輩たちと、皆さんを応援する教職員がいます。  
キャンパスの周りには、歴史・文化にあふれる魅力ある地域があります。  
そして、キャンパスを越えたところには皆さんが活躍する未来が広がっているのです。  
皆さんの可能性は無限大です。過去の失敗や未経験を恐れることなく、自らの「夢」を見つけ、その実現にむけてチャレンジする若者になってください。

みなさんが、本学で過ごされる大学時代が、実り豊かに人生を生きるための、大きな礎となることを願い、入学式の式辞とさせていただきます。

Welcome Aboard!

2022年4月1日  
名古屋学院大学学長  
赤楚 治之